

学校へ行こう

休校式に集まった皆さんにお礼の言葉を述べる児童たち。



図書館に行こう

- 開館 午前10時～午後6時
- 休館日 毎週月曜日
- 問い合わせ先 串間市立図書館 72-11177
- 問い合せ先 串間市立図書館 72-11177

【今月の新刊】

血戦(楡周平) 幸せ上手(渡辺淳一) 星が吸う水(村田沙耶香) コトリトマラズ(栗田有起) 麗しき花実(乙川優三郎) インディペンデンス・デイ(原田マハ) メグル(乾ルカ) 叫びと祈り(梓崎優) 深重の橋(沢田ふじ子) 岸辺の旅(湯本香樹実) オリブ(吉永南央) ももこのまんねん日記(さくらももこ) 地上で最も巨大な死骸(飯塚朝美) あとより恋の責めくれば(竹田真砂子) 南の子供が夜いくところ(恒川光太郎) 竹島御免状(荒山徹) G.E.Q.(柴田哲孝) コロヨシ(三崎亜紀) ナニカアル(桐野夏生) 謎斬り右近(中路哲太) スギハラ・ダラー(手嶋竜一) この世は二人組ではできあがない(山崎ナオコ) 逆境を生きる(城山三郎) ロストシンボル(ダン・ブラウン) 空気が読まない(鎌田美) 白い花と鳥たちの祈り(河野千恵子) 走らんかい(中場利一) ハナシがうごく(田中啓文) 考えない人(宮沢章夫) 神のなせる技なり(森田健) さようなら、私の嘘(ヒキタクニオ)

4月のテーマ展示

「図書館員がすすめる本」



4月23日は「子ども読書の日」です。今年も日南・串間・志布志の図書館員が子どもたちに読んで欲しい本を年代別を選びました。古い本から新しい本まで、いろんなジャンルの本が網羅されていますので、ぜひ手にとってみてください。

感 応連鎖



朝倉 かずみ/著

159センチ、95キロのからだは歩いてるだけで人目を引く。失笑をくいとめたい。あきらめなければならぬものが、いかに多いかをわたしは知っている。美しい「夢の娘」への願望が引き起こす少女たちの変化の連鎖。

虚 国



香納 諒一/著

死にかけた海辺の町にもちあがった空港建設計画。それはやがて、疲弊する共同体、軽んじられる命、欲得におぼれる人間を生み出す。公共事業は悪なのか。「文芸ポスト」連載「蒼ざめた眠り」を改題改稿、書下ろしを加え書籍化。

交流員レポート

第8代国際交流員ジュリアンの日本体験記

鹿児島島の日帰り旅

昨年、串間に来ることが決まりました。九州に来たことがなかった自分は九州観光を楽しみにしていました。

串間は鹿児島に近いので、まずは鹿児島に行こうと考えていました。連休のたびに仕事が入り、チャンスがなかなかありませんでしたが、先週の日曜日にやっと鹿児島まで足を運ぶことができました。日帰りでしたが、十分に楽しむことができました。今回鹿児島に行った第一目的は鹿児島水族館でした。クライストチャーチにはちゃんとした水族館がなく、11歳の時にいった名古屋港の水族館以来でした。海の天使クリオネ、ジンベイザメやラッコを見ることができてすばらしかったです。イルカの時間もとても迫力がありました。必死に携帯電話のカメラでジャンプ中のイルカを撮ろうとしたのですが、結局水しぶきしか写っていませんでした。鹿児島市内の天文館をぶらぶらして、鹿児島ラーメンと白熊も食べました。天文館には車で行ったので駐車場を探すのに一苦労しました。混乱した自分には路面電車で引かれそうになりましたが、なんとか死なずに生還



This month's expression
今月の表現

Where is ○○.

○○はどこですか?

Example: Where is the aquarium

例: 水族館はどこですか?



水族館のイルカたち

いつの日か再開することを信じて

75年間、島の人々に愛されてきた築島分校。平成21年度で一時休校となりました。

職員4人、児童3人の小さな学校、市木小学校築島分校(河野多己枝校長)。75年間、築島のシンボルとして愛されてきましたが、平成21年度で一時休校となりました。長きにわたり築島の教育文化の発信地としての役割を担ってきた築島分校。河野校長にお話を伺いました。「市木小学校築島分校は本年度で休校となりますが、築島で育ったたくましい子どもたちは、島と分校を心の支えとして輝かしい未来を切り開いてくれると信じています。新年度から分校を離れても、築島で学んだことを自分の自信として笑顔で頑張ってもらいたいと願っています。」

地区へき地集会所で行われました。式には関係者や卒業生、歴代の職員、島民など約200人が参加。懐かしい顔ぶれの人々が集まり、それぞれ旧交を温めました。築島と分校の歴史を振り返るスライド上映では、懐かしい映像を児童の司会進行により楽しく上映。懸命に練習してきた太鼓演奏や落語を披露し、築島への思いを3人がそれぞれ述べて、思わず涙ぐむ人の姿も見られました。1934年の創立以来75年間、多くの児童を育ててきた築島分校。近藤李香さん(5年生)、佐藤萌瑛さん(4年生)、小川凜さん(3年生)の3人も、誇りを胸に旅立ちます。島民をはじめ、この日集まった多くの人々が築島分校の再開を信じて別れを告げました。

校舎の前にみんな集まって撮影。



大好きな築島分校

新年度から、近藤李香さんと調理員の築島真知子さん以外は、島を離れることになりました。小川充裕子先生、凜さんは宮崎市へ、佐藤萌瑛さんは日南市の学校へ、植野大郎先生は築島分校以外の学校へ赴任します。島に残る李香さんも市木小学校へ通学することになりました。「これまで『築島を元気にしたい』と子どもたちと共に頑張ってきました。その気持ちは今も同じ、いつまでも元気な島であってほしいと願っています」と話す小川充先生。築島がいつまでも元気であること、そして大好きな築島分校が再開することをみんなが願っています。